

## ぶらくわな（2） 大山田川・桑名運河

西羽 晃

前回に紹介した「益田庄桑名三崎 天正元亀以前之図」（『久波奈名所図会』所載）には町屋川と大山田川が桑名市街地に流れ込んでいます。町屋川が流れ込んでいたのは納得できるのですが、大山田川が流れ込んでいる痕跡を何度も踏査しても見つけられず、困っていました。



「益田庄桑名三崎 天正元亀以前之図」（部分）

上図のうち、高島とは堤原あたり、矢部氏城は今の諸戸氏庭園（西諸戸家）付近と思われ、御宝殿とは宝殿町付近と推測されます。これらから大胆な推測ですが、今の三崎通から堤原に沿って川が流れていたと思われます。堤原の地名の由来でしょう。

最近に「ぶらくわな」の人たちと実地検分を行いましたところ、養老線播磨駅近くで、大山田川からの取水口を見つけました。今は細い取水口で、農業用水のようです。左の写真の階段の下に取水口があり、右の方向に流れています。左の直線の流れは魚道です。右の写真は付近を広く写したもので、丁度養老線の電車が来てくれました。



さて、播磨からの流路ですが、養老線に沿って小さな水路が流れています。途中で、北別所川や道路で遮られて、連続した様子は確認できません。養老線が出来る前にはもっとはっきりと流路が判ったかも知れません。

養老線に沿った水路は津田幼稚園の側の近鉄の高架下、JR第一畷踏切・養老線播磨5号踏切の下で線路を潜り抜けます。その先の修徳小学校の近くで桑名運河に通じています。

桑名運河は昭和初期に造られた運河で、桑名駅と揖斐川を結び、3本の運河があったようです。木曾川などの上流からの木材は筏で流されて桑名にきましたが、上流にダムが出来て筏が通れなくなり、鉄道輸送に替わって行きます。桑名駅の横まで運河を掘り、ここで材木を貨車から運河へ降ろしました。現在の「バロー」の場所は大きな貯木場の池でした。桑名運河は次第に埋められています、まだ1本だけ残っています。国道一号線に架かる「北矢田野橋」が桑名運河の名残りです。国道一号線には「矢田野橋」「中矢田橋」も残っていますが、水は流れていません。



追記 桑名運河の資料を探しています。ご存じの方は連絡をお願いします。

(E-mail:Nishiha123@beige.plala.or.jp)